7．11 雨乞い

「八幡の語り草」第 73 話（60 頁）

昔から、夏などに日照りが続くと各地で雨乞いが行われていた。この雨乞いは、各区の代表者が三重県の多度神社に詣で、黒幣さんをお受けしてきた。棒持してきた黒幣さんは、まず、八幡区の八幡神社に祀り、その後、朝倉、新知、佐布里、亥新田の順に送迎し、再び、八幡神社に納めて祈祷をした。それで雨が降らない時は、金幣さんへと格があげられた。それもだめな時は、寺本地区では天焼きが行われた。これは、各農家から藁一束と薪十本以上を集め、堀之内東方の薬師山で、日照り続きの夜空を焼きこがす程に燃やしたことをいう。

こうした雨乞い祈願で雨が降った場合は、そのお礼行事として、「馬駈け」を行った。